

学校経営推進費 評価報告書（1年目）

標記について、下記のとおり提出します。

1. 事業計画の概要

実施課程名	支援学校 生活課程
取り組み課題	生徒の自立支援
評価指標	支援学校における地域連携と外部への情報の発信
計画名	「つながる」カフェプロジェクト～MURANOキャリアプランを具現化するために～

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	「就労を通じた社会的自立」をめざした『キャリア教育』の推進～教育課程と各教科の指導計画の充実～卒業後に、前向きに生きていく力を育成する：ライフキャリアの視点に立ち、「MURANOキャリアプラン」へ働くためにつきたい力～」を定め、それらをねらいの軸として、各専門学科「フードデザイン」「プロダクトデザイン」「リビングデザイン」、職業共通（清掃・流通サービス・カフェ・キャリアデザイン）、各教科（国語・数学・社会・理科・芸術（音・美・書）・保健体育・家庭・外国語・情報）を効果的に教育課程上に位置づける。お互いの授業が「つながる」こと、学習集団の編成を工夫することにより、生徒が社会で自立して暮らすために必要な学習内容の精選と、社会と「つながる」学びの場の創造に努める。
事業目標	平成27年度の開校年度から3年間履修する「接客サービス（カフェ）」を、校舎内の閉じられた特別教室の施工から開かれたオープンカフェ店舗へと整備することで、地域住民や企業事業主との出会いの場とし、知的障がいのある生徒の理解を広く継続的にアピールし、地域社会資源の発掘や職場実習先の確保などの外部連携を強化する手段とする。もって「就労を通じた社会的自立」を望む生徒の就労率アップをねらう。 また、中期目標に掲げる「MURANOキャリアプラン」で強く推奨する「社会につながる授業」を教員全員が常に意識し、それを具現化するシンボルとしてこのカフェエリアを機能させ、「生徒の自立支援」を促す教育実践を研究・発表する場とする。 生徒は、教員・保護者を顧客とする第1学年の履修段階から、第2学年の地域住民・企業事業主を顧客とする段階へ、そして第3学年では、校外での出張カフェサービス提供段階へと学びをリアルな社会へとステップアップさせ、一般社会人からの評価をもらうことで望ましい職業観と勤労観を育む事業とする。接客サービスの評価のみならず、専門学科で製作した製品を使用・販売したり、制作作品を展示する場として活用することで、第三者の評価をいただき、改善点を見出しながら自己肯定感や達成感を得る取組の中で、主体的に行動する人材の育成を図る。
整備した 設備・物品（数量）	・オープンカフェエリア専用の通用門と屋外掲示板の設置・屋外ウッドデッキの増床工事 ・ロールスクリーン設置・校外来客数に対応する机椅子・コーヒーメーカー等の消耗品増強 ・リビングデザイン科（クリーニング分野）が「おしぼりサービス」をする温熱機器 ・フードデザイン科（食品加工分野）が「パン販売」をするパン製造機器 ・同科（農園芸分野）が通用門アプローチを緑化する「ラティス付プランター」設置。 ・芸術科（書道・美術）が、カフェウォールに生徒作品を展示するための吊金具と額縁。 ・プロダクト（窯業分野）が「コーヒーマグ」製作をする陶土類
取組みの 主担・実施者	①職業共通科目「1～3年接客サービス（共生推進教室含む）」授業主担者：接客訓練。 ②キャリア教育推進コーディネーター首席：各学科・教科の上記連携プラン進捗管理と推進。 ③進路指導部：外部社会資源の開拓と講師招聘。 ④管理部「教育課程」の継続検討。⑤支援部：「教育実践報告会」の企画、冊子の発行。
本年度の 取組内容	【8月】・オープンカフェエリア専用の通用門と・屋外ウッドデッキの増床工事完了したことを生徒に披露。 【9月】・フードデザイン科（農園芸分野）通用門アプローチに葉牡丹の植栽、ラティス付プランターで来店者動線を装飾。 【9月】・リビングデザイン科（クリーニング分野）が「おしぼり」を洗濯～カフェ担当が温熱機器で温め提供。 【9月】保護者あて【10月】には、地域住民・学校協議員・学校医等を招待し、「オープンセレモニー」校外への宣伝開始。 【9月】・カフェウォールに芸術科（書道・美術）・家庭科のタペストリ生徒作品を吊金具と額縁を使用して展示開始。 【11月】・フードデザイン科（食品分野）パン製造器・ホイロ等導入により「パン」の製造試作を開始。学校協議委員試食。 【11月～】一般に広く開店を周知開始。ロールスクリーン・大型パラソル・屋外掲示板の設置により、地域住民に「天の川カフェ」の存在：事業目標である本校の存在を効果的に宣伝。 【11月】・プロダクトデザイン科（窯業分野）が「コーヒーカップ&ソーサー」「菓子皿」製作一給仕する際利用。 【12月】・リビングデザイン科（福祉分野）が校方支援小学部に出張でジュースの「接客サービス」実施 【12月】・プロダクトデザイン科（木工分野）が「おしぼり皿*」製作店内の「製品展示棚*」製作（*推進費経費外） 【12月】学校祭でカフェを学年別に2か所で開催。校外来客数に対応する机椅子・コーヒーメーカー等の消耗品増強できたことで、学校祭では多くの来校者に対応できた。
成果の検証方法 と評価指標	・カフェエリアでお客が使うことを意識して、生徒が学科の授業でおしぼりの洗濯セットやおしぼり皿の製作の業務に真摯に取り組めたか。（指導者の評価による） ・来校者に「喫茶サービス」の成果を披露し、高い評価を得られたか？（顧客アンケートの肯定的意見が70%以上） ・下半期で校内職員以外の客（校方支援教員・地域住民）を250人呼び込めたか？
自己評価	※（記号説明）大きく上回った（◎）、上回った（○）、達成できず（△）、実施できず（×） ・オープンカフェエリア専用の通用門と・屋外ウッドデッキの増床工事完了したことを生徒に披露。このことにより、生徒は、教室が自分たちが「天の川カフェ」を営業し、校外のお客をおもてなしするのだという主体的な意識を持って、目的をもって接客訓練に更に意欲を持って取り組むことができた。また、購入された備品消耗品により、専門学科の6分野の全てで、お客様への製品・生産物が届くという責任感を意識し、真摯に仕事を果たせた。（◎） ・また上記の取り組みによって顧客アンケートでは肯定的意見が90%以上であった。（◎） ・地域住民に「天の川カフェ」の存在を通じて、本事業目標である本校の存在を効果的に宣伝することができ、12月の学校祭では、600人の来校者に対応し、生徒は日頃の学習の達成感をもつとともに、外部来校者・保護者からも好評を得た。（◎） ・1月時点年間来客数集計：約1,100人/49日（学校祭含む。校方・むらの両校教職員・保護者、来校企業事業主、学校祭来校者を含む）。そのうち、地域自治区のお客様はのべ20人。（◎） ・年度末集計：訓練期間も含みのべ1,300人が来店。多くの人と生徒は出会え、多くの人と知的障がいのある生徒一人ひとりと出会っていただくことができ、共生社会づくりの一步となった。（○）
次年度に向けて	・本事業により、「カフェでつながる授業」を関係教科が意識して連携するよう取り組んだ結果、生徒の学習意欲の向上、学びの深化は思った以上に、教員集団の組織活性化をも、もたらしている。この成果をスライド資料として見える化したので、異動してくる多くの教員も含め4月に校内研修を行い、次年度新転任者の大幅増員があっても、ゆらくことなく「つながる」取り組み推奨により教員集団を牽引したい。このように、「社会に開かれた教育課程」として更に進化したH29年度の教育課程改定の意図を全員で共有し、「MURANOキャリアプラン」を引き続き担当部署が協力して推進していく。 【2年目】具体的な取組内容（1年目にすでに達成済みのものを除く） ・5月中旬より2年生・3年生で授業時間内常時開店開始。（来校者週4回/100人月想定） ・3年生校方支援学校児童生徒及び地域住民を定期的に招待。（電話での注文・営業お誘いのコミュニケーション力向上） ・民間企業講師を招聘して生徒を対象にコーヒーサービス指導、講演会実施。（1回/年） ・大阪アビリンピック「喫茶サービス部門」への出場。（入賞をねらう） ・プロダクトデザイン科（木工）分野によるオープンテラスへのテーブルベンチ製作（学年集団がつながった協働製作）